アフリカ写真展　難民と子供たち

アジア・アフリカフェスティバルに展示される難民母子の写真

# 難民に秋田米を

# 今年も「愛の一粒運動」

## 14日から呼びかけ

アフリカの恵まれない子供たちに秋田米を贈ろうと昨年から始まった「愛の一粒運動」（日本ユニセフ協会友の会主催）が、今年も九月一日から一週間、県内全域の小、中学校や公民館で一斉に行われる。これに先立ち、同友の会では十四日から二十一日まで「アジア・アフリカフェスティバル」を開催し、写真展や映画祭を行い、飢えや病気に苦しむ人たちへの理解を呼びかける。同会では「これを機に少しでも貧しい国々への認識が深まれば」と初の企画に期待を寄せている。

「アジア・アフリカフェスティバル」は秋田市の県児童会館を会場に十四日から二十一日まで開催される。期間中は十五日の休館日を除いて午前九時から午後四時四十五分まで「難民と子供たち」と題する写真展。二十、二十一日は午後一時から同七時まで「アジア映画祭」を行う。入場無料。

写真展はアフリカの悲惨な現状を伝える写真二十三点をはじめ、難民を生み出す原因や背景などを紹介する。パネル、地図など五十三点を展示。「難民」と「子供」の二つのコーナーに分けて教育や保健の現状、都市スラムの急増などが一目でわかるようになっている。

また、映画祭はインドの「苦いひとくち」、フィリピンの「われらフィリピン人」、スリランカの「川のほとり」の三本を上映。いずれも貧困や戦争、独立運動などをテーマに東南アジアの現状を鋭くえぐった作品で、東北で上映されるのは今回が初めて。

同友の会の佐々木正光代表（三三）は「相手国への認識を深めることは国際交流の第一歩。物質的な繁栄にかたよりがちな私たちの考え方を改める機会にもなれば」と参加を呼びかけている。

またアフリカ・ソマリア共和国に秋田米をプレゼントする「愛の一粒運動」は、今年も九月一日から一週間行われる。昨年は秋田市周辺など一部地区だけだったのに対し、今年は全県の小、中学校、公民館に拡大。子供たちや住民が学校などに一握りの米を持ち寄り、収集段ボールに集める。集まった米はトラックで横浜港まで運ばれ、船会社の協力でソマリアの難民キャンプに運ばれる予定。昨年は八・四トンを贈ったが、今年はこのフェスティバルをきっかけに大規模なキャンペーンを展開。三十トン近い米の協力を見込んでいるという。問い合わせは西仙北町刈和野二五、佐々木興業内、日本ユニセフ協会秋田友の会（01877・5・2626）まで。

**秋田版**

秋田支局〒010
秋田市山王6―10―18
代表　0188(23)2181
広告代表0188(64)4120

＝通信部＝
能代　01855(2)5049
横手　01823(2)4030
大館　0186(42)4141
湯沢　01837(3)2840

---

# 食料危機のソマリアに秋田米を…

日本ユニセフ秋田友の会

## 愛の一粒運動 来月から実施

食料危機のアフリカ・ソマリア民主共和国に秋田米を贈ろう―と、今年も九月一日から七日まで、愛の一粒運動が行われる。昨年に続き日本ユニセフ協会秋田友の会（佐々木正光代表）が実施する。秋田市、仙北郡内の小、中学校を中心に運動が展開された昨年は総数の秋田米八・四トンが集まったが、今年は全県の小、中、高校に運動の範囲を広げ、三十トンの秋田米を目標としている。同友の会は一般の県民にも運動の趣旨を理解してもらおうと十四日から秋田市の県児童会館でアジア・アフリカフェスティバルを開き、写真やパネルでソマリアの難民たちの現状を訴えている。フェスティバルは二十一日（十五日休館日）まで、二十、二十一の両日は南アジアの現代の映画三本を上映する。入場はいずれも無料。

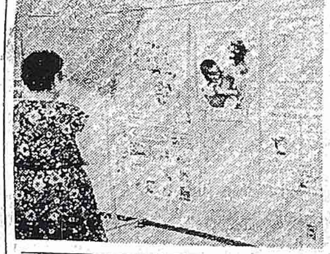
愛の一粒運動は国境紛争により二百万人の難民が流入、深刻な食糧危機に苦しむソマリアに、県民一人ひとりが一食分の米を集めて送ろうというもの。佐々木代表らユニセフ秋田友の会の会員十八人が昨年九月、初めて実施した。昨年は秋田市と仙北郡内の小・中学校を中心に運動を行い、一週間で百カ所の小・中学校などから米八・四トンが集まり、ソマリアに送られた。今年は運動を全県の小、中、高校に拡大、三十トンを目標に掲げ、合わせて輸送費の寄付も募っている。今年は夏休み直前に各校に愛の一粒運動参加申し込み用紙を配付。夏休み入りにもかかわらず、すでに十件の申し込みがきている。各学校にはポスターなどの資料や募金袋を送っている。

アジア・アフリカフェスティバルで行われる写真展は、ソマリアの難民の子供たちなどの写真二十三点のほか、地図やグラフなど計五十三点が展示されている。会場の県児童会館はお盆の日曜日とあって訪れる人は少なかったが、飢えに苦しむ難民の子供らの写真に真剣に見入っていた。二十日と二十一日は午後一時から南アジアの映画「苦いひとくち」（インド）、「われらフィリピン人」（フィリピン）、「川のほとり」（スリランカ）の三本を上映する。

佐々木代表は「運動を始めようとした時、ソマリアの難民は秋田県の人口をやや上回る百五十万人だった。現在は二百万人に増し、食糧危機は変わっていない。同情で米を送るだけではなく、難民の生活を知り問題を考えてほしい」と訴え、協力を呼びかけている。

愛の一粒運動は学校や公民館などのほか、個人からの申し込みも募っている。問い合わせは〒019―21、仙北郡西仙北町刈和野二五、日本ユニセフ協会秋田友の会（☎01877五―二七二六）。

### 県民の理解求め県児童会館でアジア・アフリカフェス開く



ソマリアの難民の現状を知り、愛の一粒運動を推進しようと開かれたアジア・アフリカフェスティバル

No.8